金沢市生物多様性地域計画

～ 自然と文化が織りなす豊かな恵みを未来へ ～

【概要版】

令和４年３月

金　沢　市

はじめに

生物多様性とは

生物多様性とは、「生きものたちの豊かな個性とつながりのこと」をいいます。
地球上の生きものはさまざまな環境に適応して進化し、3,000 万種もの多様な生きものが生まれてきました。
これらの生命はそれぞれに個性があり、全て直接的に、間接的につながり合い、壮大な生命の環を織り成しています。

生態系の多様性
～多くの自然環境がある～

森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があります。

種の多様性
～多くの生きものがいる～

動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生きものがいます。

遺伝子の多様性
～多くの個性がある～

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。

金沢市の自然環境の特徴

金沢市には森里川海のすべてが存在し、奥山にはブナの原生林やミツガシワの群落があり、
里山ではカタクリやギフチョウが観察され、街中でもホタル観賞ができます。
犀川・浅野川の清流では、ゴリやアユ、ヤマメなどが見られるほか、
河北潟には水鳥が飛来し、海岸には毎年シロチドリの営巣が確認できます。

金沢市における生物多様性の課題について

生物多様性の課題

◆ 自然環境に関する課題

① 野生動植物、自然環境への配慮
② 外来種による影響の抑制および防除
③ 野生鳥獣の保護および管理
④ 生態系ネットワークの形成・推進
⑤ 森づくり、里山、景観資源の保全・活性

◆ 人材育成や人のつながりに関する課題

⑥ 担い手づくり
⑦ 自然とふれあう場の創出、環境教育
⑧ 情報の共有化
⑨ 市民参加型の自然環境調査の推進
⑩ 関係団体の連携

金沢市生物多様性地域計画とは

計画の概要

豊かな自然やその恵み、それらを基盤として生活に根付いた文化、伝統を未来に継承していくために、
金沢市における生物多様性の保全と持続可能な社会の実現をめざすものです。
（生物多様性基本法第 13 条に基づく計画）、（「金沢市環境基本計画（第３次）」の分野別計画）

計画期間：令和 4（2022）年度から令和 13（2031）年度までの 10 年間

※社会情勢の変化等を踏まえ、概ね５年で見直します

計画の方向性について

本計画がめざすもの

私たちの生活は、金沢の豊かな自然の中で育まれたものであり、自然環境や文化など、
金沢市の個性を活かした施策を今後も推進し『持続可能な都市「金沢」をつくる』ため、環境負荷が少なく、
潤いある生活を続けられるまちを目指し、子どもたちの育成を通じて生物多様性を次世代に継承します。

基本理念

『 自然と文化が織りなす豊かな恵みを未来へ 』

～ 子どもたちの育成を通じて生物多様性を次世代に継承します ～

豊かな自然と多様な文化が共存する「光り輝くまち・金沢」

～ 自然豊かな森、台地、平野、川、潟、海がつながり、そこにはさまざまな生物が暮らしています ～

基本・分野目標、施策

基本目標Ⅰ「守る」豊かな自然や多様な生物を大切にする環境づくり

分野目標１　多様な生きものが暮らす豊かな自然を守ります

施策１　希少な動植物の保全
施策２　外来種の分布拡大抑制、防除活動、分布状況の把握
施策３　野生鳥獣の管理、生息環境の保全と野生鳥獣の保護

6.6 6.b　11.a　12.2　15.1 15.4 15.5 15.8　17.17

分野目標２　潤いある生活ができる環境を整えます

施策１　緑のネットワークの形成、緑化の推進
施策２　良好な水域ネットワークの形成
施策３　森づくりの推進
施策４　里山利用の活性化
施策５　景観資源の整備、保全

6.6 6.b　11.7 11.a　12.2 12.8　14.2　15.2 15.4　17.17

分野目標３　自然環境に配慮したまちづくりに努めます

施策１　生物多様性に配慮した農林漁業の推進
施策２　開発行為における自然環境への配慮

2.5　12.2 12.8　14.2　15.2 15.4　17.17

基本目標Ⅱ「育てる」生物多様性の恵みを未来に継承するひとづくり

分野目標１　自然環境保全を推進する人材を育成します

施策１　環境教育、保全活動に関わる人材育成
施策２　自然環境を保全する農林漁業の担い手づくり

12.8　17.17

分野目標２　身近な自然に接し、学ぶことにより自然に対する関心を深めます

施策１　環境教育の充実
施策２　自然とふれあう場の創出
施策３　グリーンツーリズム、エコツーリズムの推進

2.4　12.8　17.17

分野目標３　生物多様性ネットワークの環を広げます

施策１　各主体とのネットワーク化
施策２　自然環境調査・研究活動の推進

12.2 12.8　17.17

基本目標Ⅲ「伝える」生物多様性の情報を集約・発信する仕組みづくり

分野目標１　身近な自然を再認識し情報を共有します

施策１　自然環境に関する情報の共有化
施策２　調査結果の一元化、公開・発信

12.2 12.8　17.17

分野目標２　自然と文化の豊かな金沢の魅力を発信します

施策１　自然と文化の関連性を高める活動の推進

2.5　12.8　17.17

数値目標

基本目標Ⅰ「守る」 豊かな自然や多様な生物を大切にする環境づくり

指標		現況値（2020 年度）	目標値（2031 年度）
希少種等自然環境保全に積極的に取り組む地域数【累計】	（地域）	9	20
ホタルの観測地点数【年間】	（地点）	212	250
環境保全型農業の取組面積	（ha）	95	100

基本目標Ⅱ「育てる」 生物多様性の恵みを未来に継承するひとづくり

指標		現況値（2020 年度）	目標値（2031 年度）
森づくりサポートバンクの登録者数【累計】	（人）	6,594	10,000
自然環境教育講座の受講者数【年間】	（人）	634	1,000
市民ウォッチャーの登録者数【累計】	（人）	284	1,000

基本目標Ⅲ「伝える」 生物多様性の情報を集約・発信する仕組みづくり

指標		現況値（2020 年度）	目標値（2031 年度）
「野外で動物や植物に親しむ人」の割合【アンケート結果】	（％）	7.2	15.0
生物・文化多様性を活かしたイベントの計画数【年間】	（回）	115	150

※上記指標は民間イベント計画数も含む

「市民ウォッチャー」登録制度について

豊かな自然環境を次世代に継承していくため、「市民ウォッチャー制度」を導入しています。
この制度は、市民ウォッチャーから報告された生きものの情報をデータベース化し、
生きものの保全や生態系に悪影響を及ぼす特定外来生物の駆除や監視等の政策につなげています。

リーディング事業１

市民参加型、専門家による生物の調査・保全活動を推進

豊かな自然や多様な生物を保全し、身近な自然の大切さを再認識するために、
市民協働による市民参加型の自然環境調査・保全活動などを進めます。
また、専門家による動植物の生息・生育を把握する調査を実施し、生物の重要な環境を守ります。

（１） 市内における生物多様性調査の実施

6.6 6.b　12.2　15.4 15.5　17.17

多種多様な動植物が生息・生育し、本市の自然環境がよく残る重要な場所（金沢城公園や海岸部など）において、専門家による動植物の生息・生育を把握する調査などを行い、インベントリーの作成に取り組み、豊かな自然を継承することに努めます。

（２） 地域との協働による希少動植物の保全

6.6 6.b　12.2 12.8　15.4 15.5　17.17

希少動植物の生息・生育場所として重要な環境を守るため、環境保全に積極的に取り組む地域をモデル地域に指定するなど、地域と連携した環境整備や普及啓発活動に協働で取り組みます。

リーディング事業２

自然環境とのふれあい推進、ネットワークの環を拡大

グリーンツーリズムやエコツーリズムを推進し、地域の自然や歴史文化を体験し、学ぶことにより、
自然に対する関心を深めます。また、生物多様性ネットワークの環を広げ、市民、事業者、市民団体、
研究機関などと、自然環境に関する情報のより一層の共有化を図ります。

（１） 生物多様性を活かしたツアー等の開催

12.8　17.17

春のエコツーリズム

自然環境が豊かなフィールドにおいて、自然観察会や自然環境保全体験会などを実施し、生物や生態系の状況を観察することにより、自然への興味を抱き、人との関わりや生物がもたらす恵み、里山や自然環境保全の重要性、自然界のいのちのつながりなどを学びます。

（２） 「かなざわ自然環境見聞録」を基にした活動の推進

12.8　17.17

金沢は歴史ある社叢林（神社仏閣の森林）や庭木の緑、数多くの動植物、河川・用水などの水辺環境がまちなみと融合しています。それら「身近な自然・歴史・文化とのふれあい」をテーマに策定されている「探訪 20 コース」の PR、「地域の自然探訪ウォーク」のイベント開催など、更なる活動の推進に取り組みます。

（３） 市民団体が活動内容を発信できる場の構築

12.2 12.8　17.17

市民、事業者、市民団体、研究機関などが参画するネットワーク会議にて、環境保全に関する意見交換や情報共有を継続し、各主体が協働して事業展開を図ります。
また、生物多様性に関する情報を集約するポータルサイトを構築し、プラットフォーム機能を持たせ、行政情報だけでなく、各主体が自らの活動等を発信し、情報収集や意見交換できる場とします。

（4） 国連大学と連携した事業・研究・イベントの推進

2.5　12.8　17.17

金沢市内には、代々継承されてきた庭園があり、これらの庭園や自然をテーマに国連大学と連携した研究・調査を進めています。また、「都市の生態系サービスを将来へつなぐ庭園クリーニングワークショップ」では、日本庭園でお茶を楽しみながら自然環境や生物多様性を考えるという新たなエコツーリズムのモデルとしても試行されており、日本庭園が提供する生物文化多様性を体感することができます。このような研究、イベントなどを推進することで、「自然と文化」という視点で生物多様性の理解と普及を図ります。

（5） 生物アプリなどを活用したイベントの実施

12.8　17.17

楽しく生物調査が可能な民間アプリを活用し、市民参加型の調査・保全活動、イベントなどを実施します。調査・イベントでは、親子共同で「いきもの図鑑」を作成することや、民間アプリ会社と協働で「調査クエスト」などの企画の提案をし、市民が楽しみながら生物を学ぶことができる取り組みを検討します。

（6） 「市民ウォッチャー」登録制度

12.2　12.8　17.17

「市民ウォッチャー」を募集・登録し、希少生物や外来生物の生息・生育状況などの自然に関する情報を収集することにより、生物多様性の保全を推進します。また、対象とする生物の種類を選定するなど、調査情報の収集促進にも努めます。

リーディング事業３

自然・生物・文化のつながりを高める

豊かな自然を保全するための情報を収集・蓄積するための仕組みづくりを行います。
また、豊かな自然環境と金沢固有の文化との関連性を、自然と文化の事業・研究、体験イベント等の開催などにより普及啓発し、イベントを通じて生物多様性保全の重要性の理解を深めます。

（1） 地理情報システム（GIS）を利用した自然環境データベースの作成

12.2　12.8　17.17

希少生物、外来種、身近な生きものの分布状況の情報を電子化するため、環境省が共有する生きもの情報（いきものログ）を活用し、市民からの情報データを蓄積します。その蓄積したデータと自然に関する地理情報システムを組み合わせ、生物多様性に関する金沢市のデータベースを作成します。その作成したデータベースは、生物多様性保全のための分析に活用するとともに、生きものマップなど市民へのわかりやすい情報として提供することに努めます。

いきものログ
（出典：環境省　生物情報・収集・提供システム HP）

（2） 白鳥路ホタル観賞とあわせた文学作品朗読

2.5　12.8　17.17

白鳥路におけるホタル観賞会にあわせ、金沢三文豪のホタルを題材とした朗読会を開催し、「自然と文学」という視点で生物多様性の理解と普及を図ります。

（3） 「生物多様性ガイドブック」の作成

2.5　12.8　17.17

金沢市にどのような生きものがいるかを感じ、生物多様性について市民の理解や関心を高めるため、子どもからお年寄りの幅広い層に対して、「五感で自然を楽しむ」ことをテーマとした、身近な生きものの特徴を紹介する「ガイドブック」を作成し、生物多様性の重要性などを周知、継承します。

金沢市生物多様性地域計画
【概要版】

発行年月　令和４年（2022 年）３月
発　　行　金沢市
編　　集　金沢市環境局環境政策課
〒920-8577 石川県金沢市柿木畠１番１号
TEL：076-220-2304　FAX：076-260-7193
E-mail：kansei@city.kanazawa.lg.jp

【本編はこちら】

二次元コードを
スマートフォンで
読み取り本編へ